



あきまる けんいちろう

秋丸健一郎ってどんな人?

出身

隼人町神宮(内山田)生まれ。

昭和48年1月15日、代々、宮内小近くに住む、鹿児島神宮ゆかりの家に生まれました。血液型はO型。祖父の篤は、教員として上小川小学校長ほか、宮内小、牧園小、富隈小に勤務。元保護司でもありました。父の五郎は「秋丸建築設計事務所」の代表でした。現在は、母(81歳)と妻、子供(中3、小2)と一緒に、国分新町に住んでいます。*宮内を離れた理由は、公式サイトに書いてあります。右のQRコードから。▶



性格

ひと言で表すと「誠実」です。

仕事は常に公平・実直。筋の通らないことが大嫌い。責任感のかたまりで、よくクールなイメージを持たれますが、実は情熱家。

趣味や特技

バンド活動とサッカー観戦、動物好き。ICTなどの情報通信技術も得意です。

- バンド活動(英国ロック等。本業はボーカル。写真はビートルズのポール役)
- サッカー観戦(鹿児島ユナイテッドFCの大ファンです)
- 動物好き(現在 猫4匹と犬1匹も大切な家族です)
- 中学生からパソコンでプログラミングしていました。(初級システムアドミニストレータ取得 ※今のITパスポート試験)



学歴

ラ・サール中学校・高等学校後 鹿児島大学法文学部 法学科に入学・卒業。

幼少期は宮内幼稚園に入園後、鹿児島市立大龍小学校に入学。ラ・サール学園の体育祭では紅軍応援団の副団長でした。



市役所時代

保健・福祉・くらしと税のエキスパート

- 保健・福祉14年2ヶ月、税務6年10ヶ月、農業委員会2年、計23年の市役所職員時代、常に市民の声を聞き、課題や困りごとの解決策を自ら企画し、実行し続けました。
- 発達障害の支援機関「こども発達サポートセンター(あゆみ)」の立ち上げ(平成23年)
- 地域のひろば推進事業の企画(平成28年)
- 複数の相談窓口を統合した「こども・くらし相談センター」の企画立案(令和元年)



好きな言葉

- 次の言葉を胸に、市役所を退職し、市政に挑戦する決断をしました。
- 「ハングリーであれ、愚かであれ」(スティーブ・ジョブズ 元アップルCEO)
- 「命もいらず、名もいらず、官位も金もいらず人は、仕末に困るものなり。この仕末に困る人ならでは、艱難を共にして国家の大業は成し得られぬなり。」(西郷南洲翁遺訓)

上ではなく、前に立つ。

秋丸健一郎 後援会

〒899-5106 霧島市隼人町内山田1丁目3-41 (隼人駅ロータリー内)

TEL 0995-40-9072

MAIL k16.akimaru@gmail.com



活動情報をサイト・SNSで配信中

▶ 公式ホームページ [秋丸.com](http://aki.com)

▶ 各種SNS、ブログにて情報発信中!



秋丸健一郎後援会 LINEアカウント



秋丸健一郎のメッセージを動画で視聴できる!

YouTube チャンネル

ご視聴・チャンネル登録 お願いします。



後援会討議資料

秋丸健一郎

あきまる けんいちろう

つなぐ、とどく、かがやく。『シン・カリスマ』

まず、大人が 幸せになれる街へ

この街で暮らす大人が幸せそうな顔をしていなければ、子どもだって笑顔になれない。

大人がいつまでも安心して暮らせる街であれば、子どもはこの街の未来に希望を持つことができる。

何歳になっても、障害があってもなくても、結婚していてもしてなくても、子どもがいてもいなくても、みんなで支え合って、手を差し伸べ合って、誰もが安心して生きていける街。

霧島市の人と資源が持つ可能性をつなぐ・とどく・かがやく仕組みにすることで、まず大人が、そしてみんなが幸せになれる街へ。



もう少しです。これをお読みのあなたの力を、私に貸してくだされば、霧島市は変わります。

私は福祉を担当していた時に、「市民を支援する人」を「支援」してきました。自分一人で直接助けられる人は限られています。でも、多くの仲間と思いをともにすれば、より多くの市民を支えられます。

同じことを、福祉の枠に留まらず、市役所全体がもっと市民を応援する組織にしたい。そんな思いを抱えながら、職員の自主勉強会を主催したりしながら、中から組織を変えようと努力して来ました。多くの仲間もできましたが、結局中から組織を変えることはできませんでした。4月以降の政治活動の中でお会いした多くの方がおっしゃいました。

「霧島市はいいものはたくさんあるのに、上手く活かせていない。もったいない」

「霧島市を変えるのは今しかない」

「今回変えないと、もうチャンスはない」

霧島市は恵まれています。恵まれているが故に、市全体としてしか物事を見ない。小さな市民の悩み・痛みに気が付かない。目を向けない。コロナ禍で大変な思いをしている人たちに對してもそうでした。

「海を活かし、山を活かし、豊富な資源を活かし、そして人を活かす。」

そんな市政を霧島市民といっしょに実現したい。その愚直な思いで、安定した身分を捨てての挑戦。しかし、だからこそ多くの方の期待と応援をいただいています。

もう少しです。あなたの力で変わります。

秋丸健一郎

政策 企画力&実行力で違いを見せる

秋丸健一郎 つなぐ、とどく、かがやく。『シ』・キリシマ マニフェスト

「伸」ばす 保育・教育

学校教育を保護者も地域も一緒に考える「コミュニティ・スクール」の導入。

教員の異動があっても、各学校の教育方針等を地域と保護者で守れるような仕組みとして、保護者や地域が学校と一緒に知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、子どもたちの育ちを支えるため、「コミュニティ・スクール」制度を導入していきます。



- 中学校給食の無償化。
- 教員へのICT研修、市統一のデジタル教材作成、GIGAスクール構想に対応した新学習への取り組み推進。
- 学校で必要なものをPTAのバザー活動などで補うことの無いよう、教育予算の充実とPTA活動の見直し。
- 霧島市の郷土史の編纂に着手。それを基に小・中学校や生涯学習で使用できる「霧島学」のテキストを作り、「ふるさと霧島カルタ」などの活用とあわせて、故郷の歴史と文化に幼い頃から触れられる環境づくり。
- 主権教育の一環として、高校生等で構成する霧島市青少年議会で、与えられた額の予算の使い道を決めるようにします。
- 不登校支援やコロナ対策としての「リモート学習体制」構築と、学校内に「居場所カフェ」など居場所づくり。
- 少年団や部活動などの指導者人材バンクの設置。
- 地産地消、オーガニック給食の推進。
- 中山間地域において、「合理的配慮」や、「インクルーシブ教育」等特色のある学校づくりの促進。
- 通学路の安全性の総点検。
- 病児病後児保育や、夜間・休日保育施設の設置促進。
- 医療的ケア児が保育・教育を受けやすい体制づくりと、保護者が休息できる「レスパイト体制」づくり。
- 待機児童を減らすため、実態に応じた保育・教育施設の定員適正化や民営化の推進。
- ICT活用や入力業務の事務員の配置等による教員の負担軽減。
- 学校長の民間公募や教育委員に子育て世代を専任するなど、教育に新しい視点を導入。

「心」に寄り添う 保健・福祉

高齢者から子供まで、全世代の市民が悩みを相談しやすい、困りごとに寄り添う体制づくりを強化します。

子ども・くらし相談センターをさらに深化させ、「相談支援」「孤独・孤立対策」「地域づくり支援」を一体的に行う重層的支援体制として整備し、各総合支所などへの相談窓口の設置や、地域での出張相談会の開催など、困りごとに寄り添う体制づくりを進めます。

- 歳を重ねてもできる限り自動車運転能力を維持できるよう、運転寿命延伸プロジェクトの実施。
- チャットやテレビ会議などインターネットを活用した相談窓口を設置。
- 保健師、理学療法士、作業療法士等による介護予防・認知症予防のための事業拡充。
- 介護が必要になっても、認知症になっても、障害があっても、自分らしく生活できる福祉サービスの充実。
- 社会福祉士や保健師などの保健福祉に関する専門的人材の職員採用増。
- 発達障害を持つ生徒に配慮した高校の運営支援により、スムーズに社会へ出られる仕組みづくり。
- 生活困窮者に対する支援者ネットワークの構築。
- こどもがおおむね一歳に達するまでの母親の心理的負担や子育て負担を軽減するための親子教室の実施。
- 霧島市で働く保育士等の福祉職の市民税減免制度。働く人は税負担軽減、事業所は職員確保をしやすく。
- 若い新婚世帯への結婚新生活支援補助金の支給。
- 中学校区ごとに保健センター、幼稚園、保育園、小・中学校、療育機関などの情報共有・連携を行う、「子育て連絡会議」を設置。
- こどもの権利擁護に関する条例を制定し、関係機関で適切に情報を共有。また、いじめなどの調査権限などを持つ委員会を設置します。
- 児童扶養手当や保育園入所などの手続きを、平日の窓口以外にオンラインや土日も行える態勢に。
- 児童発達支援、放課後等デイサービスの質と量の充実。
- 虐待やDVなどの被害者が一次的に避難できるシェルター施設の設置。
- 避妊手術等の条件付きでペット飼育を認める市営住宅の指定。
- 市営住宅のあり方を見直し、連帯保証人の廃止やひとり親世帯などの優先入居の実施。

「芯」の強い 地域経済

「ドライブインシアター」を誘致。

感染症対策と地元飲食店の応援を両立できるエンターテインメント企画。大型モニターを自分の車から観覧し、周囲にキッチンカーを配置。地元の料理を楽しみながら映画鑑賞できる「ドライブインシアター」を誘致します。



- 感染症予防対策として、飲食店等の混雑回避にICT活用。
- 地域活性化起業者制度などを活用した、マーケティングコンサル人材の登用。
- スタートアップ育成補助金により、地元での起業を応援。
- 人の移動（観光）が制限される間、ふるさと納税を起点として、霧島の魅力を伝えるモノの移動を促進。
- 観光の揺り戻しに備え、県と連携しアジアへの玄関口として、空港と港を環境整備・活性化。
- 農福連携による就農人材確保。
- 企業版ふるさと納税の活用による官民連携を促進。
- 40歳くらいまでの若者で協議してもらい、旧市町ごとに交流人口を呼び込む「輝きスポット」を整備。
- 所得向上のため、大学、高校との連携による高付加価値産業の育成。
- 飲食店のネット通販参入支援。
- 空港・駅周辺などにネットワークインフラの整った「シェアオフィス」「リモートオフィス」を誘致。
- 歴史と神話のまち魅力づくりプロジェクトを実施。ここしかない観光資源のストーリーづくり。
- 農畜産物のブランド化の確立と東南アジアを中心とした海外への販路拡大。
- 都市計画区域・農業振興地域を見直し、遊休土地の有効活用を推進。
- レジャーと漁業が両立する海と浜の魅力づくり。
- 災害時に備え、地域の土木・建築力を温存するため、公平・公正な公共事業発注。

「深」める 地域の絆



地域の祭り・文化維持・ボランティア活動に頑張る地域を応援する「まちづくり補助金」を創設。

各部署がそれぞれ出している地域活動への補助金を一つに統合し、活動に応じて加算したり、柔軟に使い方を決められる「まちづくり補助金」を創設。地域の祭り・文化維持や、ボランティア活動に頑張る地域を応援します。

- 手続きをする役所から、専門職を配置したコミュニティ活動拠点へ。
- 配達・移動販売ネットワークの構築と、地域ごとのファーマーズマーケットの整備。
- 家庭と職場以外の生活の場となる、様々な人が交流する第3の場所（サードプレイス）の設置促進。
- 互助を維持できるようなコミュニティ単位の見直し。
- 自治組織での維持が困難となった墓地や水道などの市営化。
- 道の駅など身近な場所で生鮮食料品を購入できる体制。
- 学校や、神社・お寺などをコミュニティの要とした多世代交流の推進。
- 地域ごとの防災対策の推進。
- 公共交通の専門家を招き、交通ネットワークを使いやすく再構築。
- 市民が書き込めるインターネット上のイベントカレンダーを整備。
- 地域の情報共有のための無線設置促進や、インターネットを使った周知方法の整備。
- TNR捕獲器の貸し出しなどによる地域猫活動の推進や、譲渡会の情報発信推進などにより、動物殺処分ゼロへ。

「進」む 動く行政

ネオ・テクノポリス「スーパーシティ霧島」の実現

デジタル化推進官を登用し、AI・RPAの導入による市の業務効率化、統計データや地図などの公共データの民間開放など、未来都市（スーパーシティ）の先行実現を目指します。



- 市民税の1%を使った市民提案型事業を実施。市民の提案・審査のもと、地域課題の解決に活用します。
- 霧島市内全域で定期的に市長による市政報告会を実施。
- 防災、地域づくり、地域福祉、健康づくり、環境美化などの地域活動を一体的に担当する「地域共生部（仮称）」を改編新設。
- こどもに関する業務を集約したこども部（仮称）を新設。
- 財政、会計、税、ふるさと納税を統括し、事業実施に有利な財源を調査・確保までを行う財政部（仮称）を新設。
- ホームページや各種SNSなどを活用し、積極的な情報発信を行うための情報戦略室を設置。
- 市の事務事業の総点検。
- 総合支所窓口から、リモートで本庁舎担当とやりとりできる環境整備。
- 霧島市役所Web支所の設置（相談窓口やネットでの申請手続・決済）。
- 証明書手数料などのキャッシュレス化導入。
- 市民の相談情報を共有し、度々変わる担当職員に同じ話を何度も話さなくて済むシステムを導入。
- ふるさと納税業務を民間委託し、納税額の倍増を目指します。
- 土砂災害などを誘発しかねない急傾斜地などへの大規模開発を伴う太陽光発電設備の規制条例を制定。
- 5Gなど、次世代ネットワーク含めたネットインフラの整備促進。
- LGBTパートナーシップ制度の導入。

やりたいことがたくさんあり、なんとかここまで絞り込みました。

一次マニフェストの説明等も含め、本紙では伝えきれないマニフェストの全内容は、「秋丸健一郎公式サイト」にて掲載中。

スマートフォンのカメラから、右のQRコードを読み込むと「秋丸健一郎公式サイト」をご覧ください。



他にも